

JRC2024 参加放浪記

華岡青洲記念病院 山口隆義

皆様こんにちは、華岡青洲記念病院の山口です。今年は「暖かくなるのが早い」とニュースになっていたので、3月末に京都の桜を見に行ったのですが、その少し前の気温低下のため、咲いていない桜の木の下を散歩する旅となってしまいました。しかしながら、いつもは桜が散っている JRC ですが、今年は桜が見事に満開となっており、久しぶりに春を感じられた横浜でした。

その JRC2024 ですが、今年も座長のお仕事を頂きました。ここ3年、常に初日最初のセッションを担当して参りましたが、今年も同じく初日最初、そして開始時間が 11:20 の午前スタート。流石に当日入りだと不安でしたので、前日入りし静かな馬車道でひっそり過ごしました（結果、良いビストロを発掘できました）。

コロナも 5 類となり、会場でのマスク着用者も少なくなり、いよいよコロナ前とほぼ同じ雰囲気学会に戻った印象でした。これまで行われてきたオンデマンド配信のプログラムも少なくなり、やはり情報は足で稼げといった所でしょうか。Web の良さもありますが、家に引きこもっての参加は、少し寂しい感じもしますね。

今年の第 80 回日本放射線技術学会総会学術大会では、宿題報告を務める事になり、数ヶ月前より講演準備を進めてきました。宿題報告とは、長年の専門分野における研究成果を会員のために広く報告する講演で、全国で年に 2 人が選ばれます。私は「造影技術の研究から始まった心臓 CT の技術開発」という内容で講演を行わせて頂きました。30 分という時間でしたが、私がこれまで行ってきた研究活動への思いと、これからの皆様へのメッセージを込めてお話させて頂きました。最後の方では、立ち見も出ていたという事で大変有り難く思っております。講演後には、感謝状と記念の楯も頂くことができました。

さて、JRC の魅力の 1 つに ITEM があると思います。CT 装置も毎年の進歩が止まらないわけですが、ザックリ言うと今年は「Motion correction 祭り」でした。心臓の領域ではモーションアーチファクトが常に問題になりますが、いよいよ様々な装置メーカーが工夫を凝らした手法で動き補正へのアプローチを始めておりました。キヤノンからは CLEAR Motion がリリースされ、日常的に心臓周囲の動きが補正された画像が得られるという事でした。肺野で動きのない綺麗な画像が展示されており、PIQE との相性も良さそうでした。この技術は他にも応用できそうでしたので、私の専門である領域への期待値も高まっている所です。また、キヤノンが先行して取り組んできた deep learning 画像再構成ですが、他社も漏れなく追従してきている印象でした。ですが、やはり教師画像のクオリティが重要で PIQE の素晴らしさを改めて感じた次第です。

学会の後には全国の仲間との情報交換が重要です。久しぶりの再会となる方々も多く、こちらも楽しい時間でした。直接語り合える場でのパワーは、Web ではなかなか得られません。Web の画面から飛び出して、リアルを楽しみましょう！！

